



▼奥名町長に寄付金の目録を手渡す日野支社長（中央）



目録を受け取った奥名町長は「本町でも、飲食店経営者をはじめ、新型コロナウイルスに苦しんでいる町民も少なくありませんので、ありがたい使わせていただきます」と感謝を述べました。

全国の約1200の自治体や非営利団体などが同社から支援を受けました。

コロナ禍に苦しむ地元を支援

「私の地元応援募金」贈呈式

9月1日（火）町長室で、明治安田生命保険相互会社の日野研太熊本支社長が、奥名克美町長に寄付金を手渡しました。

「地元の元気プロジェクト」として各地の自治体や企業・団体などと連携して地域活性化に取り組む同社は、コロナ禍の影響により支援を必要としている団体などに「私の地元応援募金」を贈呈しており、今回、県内16の市町村が支援を受けました。

同募金は、同社従業員が自身とゆかりがある自治体や団体に対して行った募金に、同社の寄付を上乗せして贈るもので、

地域の協力で学力向上

甲佐中で「甲佐町未来塾」が開塾

8月26日（水）甲佐中学校で「甲佐町未来塾」が開塾しました。

同塾は、地域の中学生の学力および地域の教育力の向上を図ることを目的に開塾。地域の大学生や元教員などの地域の協力を得て、同中（永瀬善久校長）の生徒に学習機会を提供するために町教育委員会が主催。学習支援の調整役を担うコーディネーターを中心として、元教員などで構成される学習支援員と学校が連携しながら、今年度末までに全22回、数学と英語に取り組みます。



▲リモートで行われた開塾式に参加した甲佐中生徒ら



▲カーブミラーなどの清掃を行う参加者ら

通学路の交通安全を守る

交通安全協会乙女支部カーブミラー清掃活動

8月30日（日）交通安全協会乙女支部（長野静雄支部長）が校区内のカーブミラーなどの清掃を行いました。

同協会は、登下校する児童らの安全を守るために、2学期が始まる前のこの時期に毎年実施しており、13人が通学路に設置されたカーブミラーをモップで磨いたり、成長した夏草の除去をしたりして、交差点の視界を確保しました。

清掃活動に参加して5年になるといふ長野さん（府領区）は「子どもたちや地域の交通安全を守る取り組みを今後も続けていきたいです」と汗を拭いながら話しました。

みんなで守ろう！緑川

くまもと・みんなの川と海づくりデー

9月5日（土）令和2年度「くまもと・みんなの川と海づくりデー」緑川流域一斉清掃活動が実施されました。

県内の川と海を守って次代に引き継ぐことを目的に、県・町などが主催。町内では、新型コロナウイルス感染症対策として例年のような周知はせず、町職員ら有志の約70人が参加しました。

参加者は、中甲橋グリーンパーク、麻生原運動公園、津志田河川自然公園の3会場で、空き缶など約100kgのごみを収集しました。



▲津志田河川自然公園内の放置ごみを回収する町職員ら

子どもたちに楽しい夏の思い出を

白旗小児童がカヌー体験



▲白旗小学校のプールを使って行われたカヌー教室で2人乗りカヌーを使ったリレーで競う同小6年の児童ら



▲避難所受付で避難者の検温を体験する参加者ら

避難所での感染症対策を学ぶ

避難所運営研修会

8月30日（日）と9月13日（日）町生涯学習センター・ホールで、新型コロナウイルス感染症への対応が迫られる避難所運営のあり方について学ぶ研修会が開催されました。

同研修会は、台風の接近などによる避難所開設に備え、町が町内各地の自主防災組織などを対象に実施。各行政区長など26人が参加しました。

町総合保健福祉センターの保健師が感染症に関する基礎知識などを説明しながら、参加者は受付や避難者同士の間隔の取り方、避難所生活における感染予防策などを実際に体験しながら学びました。

9月15日（火）白旗小学校でカヌーを使った授業が行われ、同小（前川和宏校長）の6年生が慣れないパドルを懸命に動かしました。

新型コロナウイルスの影響で、夏休みが大幅に短縮となり、例年行われていたキャンプ体験なども中止となった子どもたちに、夏の楽しい思い出をつくらせたいと同小の教員が企画。

町が所有するカヌーを活用し、同小2～6年生が学年ごとにカヌーを使った今年最後のプールを楽しみました。

児童らはパドルの扱い方を学んだあと、ライフジャケットやヘルメットを着用し、カヌーに乗って練習。プールに作られた特設コースで、2組に分かれてリレー形式で速さを競いました。

カヌー体験ははじめてと話す木下倅乃さん（北早川区）は「まっすぐ進むのが難しかったです。リレーは皆で協力して楽しめました」と笑顔。酒井月輝さん（芝原区）は「夏休みは短かったけど、楽しい思い出ができてよかった」と嬉しそうに話しました。